

掲示板のことば

死は

いつか来るもの

ではなく

いつでも

来るものなの

樹木希林

2019. 12

樹木希林さんらしいと言いますか、なるほど…と思いますね。でも、なかなかこうは思えません。できることなら、死は遠ざけておきたい…。

現代を生きる私たちは、「死」をなるべく遠ざけて、「死」には触れることなく生きていきたいのです。大切な身内が「死」を迎えた時にも、自分にとって「死」は非日常的なことにしたいですから、お葬式に参列したときには、自宅に入る前に玄関先で、自分の体に塩を振りかけて、そこで「死」に触れたことをリセットし、いつもの日常生活に戻ってゆきたいのです。

しかし「死」は、実は日常です。樹木希林さんは、「いつでも来るもの」だとおっしゃいます。それはなんとなく分かってはいるのです。生と死は、紙の表と裏のごとくに、どちらも私のいのちの営みなのです。でも、できればそれは「いつか」であって、「いつでも」とは思いたくないのです。

「死」が日常であることを教えてくれるのが、「葬儀」の場なのではないでしょうか。大切な方の「死」を通して、私も例外なく「死」を迎えることを意識します。考えたくなかったことではしたが、「死」はこの私にとっては身の事実です。その事実気づくことは、とても大切なことです。

「葬儀」は、亡き方より「死」を教えていただく大切な場なのです。

真宗大谷派 光明寺住職 小林尚樹